

37. スギのサンドライ材の生産 販売についての一考察

野辺地営林署 芦村 愛寿

1. はしめに、

当署においても平成元年度の業務計画に基づき、サンドライ材の生産、販売に取り組むことになり、その生産手法等について局の指導書及び他署での実施に関する文献等を参考にしながら、本年度約400m³の生産、販売を実施することができた。

当署としてはこれを機に、サンドライに対する業界の意とするところの一端でも承知すべくアンケート調査を実施し、その示唆する方向に沿いつつ、現有資材の付加価値の向上を指向した製品生産を推進し、サンドライのブランド化に向けて、より一層の効果ある方法と能率性の維持向上に資しようとするものである。

2. 初めてのサンドライ生産にあたって、

(1) 実行箇所の概要

実行箇所	尾駸山国有林143い、小班内
傾斜、方位	北東向、傾斜23度
面積	1.89ha
樹種、林齢	スギ、クロマツ、その他広、60年生
スギ立木本数	952本 (ha当り502本)
立木材積	513m ³ (ha当り272m ³)
1本当り材積	0.54m ³ (D30cm、H16m)
生産量	3.99m ³
生産形態	生産請負事業

(2) サンドライ生産にあたって留意したこと、

- イ) サンドライとして適合するには、乾燥が絶対条件であることから、伐倒木を重ねないこと。
 - ロ) 集材作業に有利となるような伐倒方向を考慮したこと。
 - ハ) 先山への通路の確保も大切であることから、伐区の奥から伐倒を進めたこと。
 - ニ) 集材作業等を考えて、伐倒前に幹線集材路を作設することにより、集材以降の作業工程を維持すること。
- 等であった。

- 三) 含水率の調査については、供試木5本について伐倒直後と52日間の葉枯らし処理後の2回実施し、その結果は第1表のとおりである。

第 1 表 含 水 率 調 査 表

供試木	箇所	含 水 率		適 合 検 査	
		採取直後	全乾後	採取直後	全乾後
1号	峰筋	114 %	83 %	1,582.4 g	865.9 g
2号	〃	133 %	85 %	932.9 g	503.0 g
3号	沢筋	121 %	102 %	1,668.4 g	827.6 g
4号	〃	124 %	102 %	793.2 g	391.9 g
5号	中腹	137 %	79 %	1,408.6 g	789.0 g
計				6,385.5 g	3,377.4 g

※ 平均含水率 $(6,335.5 - 3,377.4) \div 3,377.4 = 89\%$

1) 供試木伐倒年月日 元.7.10

2) 葉枯らし後供試体採取 元.8.31

(注) 供試木3. 4号は、沢筋の急傾斜地で供試木の上に伐倒木が重なり、水分の蒸散が十分でなかったものと思われる。

3. 製品の販売結果

製品の販売結果については第2表のとおりであるが、

- (1) 同一個所での葉枯らし材(サンドライ)と普通材の販売ができなかったため、比較はできないが、類似林分の普通材(3.65m)の販売結果と対比するとm³当り販売単価に7千円の開差があった。
- (2) 公売における応札枚数では、サンドライ材が平均一口当り9枚、普通材では平均一口当り7枚となり、結果としてサンドライに対する人気が見えた。

第 2 表 葉 枯 ら し 処 理 材 (販 売 時 期 1 0 月)

樹種	長級	径級	材積	販売単価	備 考	
スギ	3.65	30~44	29	50 千円	元玉・中玉A	サンドライ
〃	3.65	30~44	21	51 〃	〃 〃	〃

〃	3.65	20~28	18	36	〃	元 玉	〃
〃	3.65	22~38	51	42	〃	元玉. 中玉	〃
〃	3.65	13~30	226	26	〃	中玉(3口)	葉枯らし材
〃	4.00	7~16	35	21	〃	中 玉	〃
〃	1.80	9~40	19	13	〃	込	〃

普通材(販売時期6~11月)

樹種	長級	径級	材積	販売単価	備 考	
スギ	3.65	13~42	652	24 千円		平 均
〃	4.00	6~16	133	21 〃		〃
〃	1.80	6~24	57	6 〃		〃

4. アンケート調査について

青森、秋田、岩手県の取り引きがあった業者62社に対し、生産・販売に関する11項目に亘るアンケート調査表を郵送等の方法によりご依頼したところ、53社(85%)から回答を戴き、集計した結果が第3表のとおりである。

第 3 表 アンケート集計表

番号	項 目	回 答			
		あ る	〃	な い	〃
1	局・署に問い合わせたことが	あ る	19 %	な い	81 %
2	含水率の適合検査を	知っている	56 %	知らない	44 %
3	サンドライを購人したことが	あ る	69 %	な い	31 %

4	今後も購入の考えは	あ る	74 %	な い	26 %
5	サンドライは効果が	あ る	74 %	な い	3 %
6	今後も積極的な販売を	望 む	74 %	望まない	26 %
7	入札に当たり価格の考慮を	す る	16 %	しない	84 %
8	入札の場所が今までより遠くても	参加する	23 %	今までの範囲	77 %
9	サンドライの葉枯材の効果は	あ る	46 %	普通材と同じ	54 %
10	対象資材の樹齢は	60年生以上			54 %
		樹齢にこだわらない			46 %
11	一口の販売量は	50m ³ 未満がよい			52 %
		50m ³ 以上がよい			48 %

このアンケート調査結果を分析すると次のようなことが考えられる。

- (1) 設問1～2ではサンドライに対する関心の度合を示したものであるが、すでに名前は知っているものの、その内容について承知していない傾向が伺える。従って営林局署挙げてP.Rを積極的に行う必要があること。
- (2) 設問3～6ではサンドライを望む社が多く、需要も多いことが察せられるので、今後サンドライの生産を拡大する必要があること。
なお、今後も積極的に希望する理由の主なものは、
 - イ) 材が軽くなり色がよい。 40 %
 - ロ) 天乾日数が短縮される。 30 %
 - ハ) 製品の需要が拡大する。 15 %
 等であった。
- (3) 設問7での付加価値に対する価格面での評価は多くを望めない模様であること。
- (4) 設問8においては、サンドライを希望しつつも従来の集荷範囲を

越えてまで集荷する意志はなく、それに応えるためには地元各署でのサンドライ生産販売に積極的に取り組む必要があること。

- (5) 葉枯らし材についてもある程度の需要が見込めること。
- (6) 樹齢にこだわらない社が約半数あることから、今後は対象林齢を伐期齢までの引き下げが可能であること。

5. 考察の結果

生産に関する考察の結果としては、
メリットとして、

- (1) 集材時に伐倒の遅れの問題がない。
- (2) 事前に集材路を作設することにより集材路が乾燥し、集材量及び集材回数がコンスタントになる。
- (3) 材が軽くなり、一回当りの集材量が多くなり巻立工程もアップすること。

デメリットとして、

- (1) 梢端部に残した15～20%の枝が堅くなり、枝払がしにくい。
- (2) 材が堅くなり、造材時の切れ味が鈍る。

しかし、比較するとメリットの方が大きく、能率性の維持ができること、及びサンドライの生産販売については、材の色がよくなり製品乾燥日数が短縮されて需要の拡大が期待されること等から、積極的に生産販売を望んでいることである。

販売に関する考察についてはアンケートの分析のとおりであるが、更に、

- (1) 有利販売、販売の促進を図るため、需要動向に応じた採材と仕訳巻立を積極的に行う必要があること。
- (2) サンドライのP.Rを広める必要があることから、入札案内先についても従来の顧客にとらわれないことなく、署間の情報交換をより密にし、入札参加者の掘り起こしを図る必要があること。
- (3) また、葉枯らし処理材については物件に表示されないため、流通段階での国有林材のP.Rができないことから、今後葉枯らしマークの表示について検討する必要があると考えられる。

6. おわりに

製材所としては、木材の人工乾燥設備を保有しない所が多い状況の中にあって、葉枯らし材を望む業者も多く、また、対象樹齢についても46%の業者は、従来の樹齢60年生以上にこだわらないと回答していること等を考慮しながら、素材の品質と付加価値の向上を図るためにも、今後もサンドライの生産・販売の両面にわたって積極的に取り組み、量的拡大と製品の安定的供給を図るため一層の研究を積み重ね、よりよい生産販売に努めていきたい。

なお、私どもの設問の稚拙さから、ご協力を戴いた業界各位にはその意とするところを十分にお伝えすることが出来なかつたにも拘らず、曲げてご協力戴き、かつ、貴重なご意見の数々を賜わったことに対し深甚の謝意を表す。

以上